

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第 726 号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] info@print.or.jp

11

2016

平成28年
11月10日発行

INDEX

印刷燦燦	3
HOPE2016パネルディスカッション	4・5
平成28年度第5回理事会開催	6
第22回北海道青年印刷人フォーラム	7
平成28年度全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会開催	7
「特別ライセンスプログラム“CC”」平成28年度募集案内	8・9
MUD教育検定3級受検のご案内	10
「避難所サポートセット」を寄贈	11
北海道印刷関連業協議会平成29年新年交礼会案内	11
業界のうごき	11

《表紙》雪の斜里岳とキタキツネ[斜里岳道立自然公園]斜里郡斜里町(11月)



北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル
TEL.011-595-8071/FAX.011-595-8072

UD
FONT
by MORISAWA

100%
古紙100%再生紙

VEGETABLE
OIL INK

GREEN PRINTING JAPAN
P-010129
2016年度印刷技術者協会
環境にやさしい印刷技術者協会

CSR

この印刷物は、CSRに
取り組む印刷会社が製作
した印刷物です。

P-00023

印刷 燦 燦

なぜ減らない飲酒運転??

今でも記憶に新しい、2015年6月6日砂川市でおきた一家5人が犠牲になった痛ましい事故。

北海道で最近発生した交通事故のなかでも、特に悲惨な事故の一つだと思います。

その時はこれを教訓に誰しものが、飲酒運転は絶対してはいけないと思ったのではないのでしょうか？

道内の飲酒を伴う交通事故の実態を調べてみると過去5年で飲酒運転による人身事故は、件数、傷者ともに増減はあるものの減少傾向で推移しているが、死亡事故は、件数、死者ともに顕著な減少は見られないとのこと。

事故に遭った被害者の家族はもとより、加害者も一生その重荷を背負うことになることは十分理解しているはずなのに。

私の知り合いは、飲酒運転で事故こそ起こさなかったけれど、逮捕され、その会社の業績を著しく悪化させました。

私の経営する会社のように小さい会社だと、誰かがそのようなことを起こしてしまうことがあれば、即命取りとなるでしょう。

警察に逮捕されるからということよりも、自分の会社、家族、社員のことを考えると、わかりきったことだけれど、今一度みんなと考える必要があるでしょう。

北海道印刷工業組合理事・苫小牧支部長 **山田新一**

北光印刷株式会社 代表取締役

HOPE2016パネルディスカッション

HOPE2016パネルディスカッションが、9月3日午前10時30分から、札幌市白石区のアクセスサッポロで、ファシリテーターに中野貴英氏（株式会社アステップ代表取締役）、パネリストに藤田靖氏（株式会社プリプレス・センター代表取締役）、高岡幸生氏（株式会社リージョンズ代表取締役）、内池秀敏氏（株式会社内池建設代表取締役）を迎え、「企業を進化・発展させる取組事例について」をテーマに約80人が参加して開催された。



藤田 靖氏
株式会社プリプレス・センター
代表取締役

藤田靖氏は、大学卒業後、文具メーカー勤務を経て、1988年に個人で創業したプリプレス・センターは、プリプレスや印刷から川下に事業領域を拡大し、加工会社を買収するなどして現在はグループ全体の従業員数は150人になった。

同氏は、「ここまで業界が大きく変わるとは想像していなかったし、今振り返れば驚いているが、凄い変化があったから残ったし、変化がなかったら下請けでなかなか仕事がもらえなかっただろう」と振り返った。

今後の事業展開については、「薄紙対厚紙、商業印刷対パッケージ印刷で、現在は6対4の比率であるが、2～3年で変わるだろう。チラシが『風前の灯』なのに対し、インバウンドのお土産や健康食品、化粧品の包装は減っていない。一昨年まで商業印刷100%で戦ってきたが、昨年にM&Aを行い、今後は厚紙、パッケージ印刷市場に参入していく。グループ売上20億円を3年以内にM&Aを含めて50億円にしたい。商業印刷のマーケットを守りながら、厚紙印刷を取り込むことで生きていけると思っている。パッケージ印刷のマーケットでも苦手な少数を事業の柱にし、オンデマンド機と箔押し機、11月には東京に厚盛印刷が可能な『スコディックス』を導入することを決め、価格競争では勝てないので、付加価値で何とか勝負したい」と説明した。

また、創業から約30年間を10年間ずつに区切って分析し、「最初の10年間は苦労続きで、自転車で営業をするプロカーから始めた。写植や電算で食いつなぎ、技術に詳しくなり、そこで米国でMacが登場した。人を育てながら、買える機械を導入し、組織づくりをした。次の10年間は、デジタル化のなかで、EプリントやクイックマスターDIなど最新機器を入れた。他

社はオフセットばかりに目が行っていて、ぽっかり空いた市場で商売をし、いろいろな分野、特に年賀状は市場を確立できた。それまでは刷り置きに軽オフで追い刷りしていたのを、我々はカラーコピーで1枚ずつ違うので、他社が30アイテムなのに対し、我々は300アイテムもあり、東急ハンズやロフトなど全国展開することができた。直近の10年間については、札幌だけでは市場はなかなか伸びず、価格競争しかないので、理解をしてもらえる市場に移ろうと、東京と大阪に出先を作って水平展開をした。札幌には90人、他は50～60人の従業員がいるが、3年後は札幌と同じくらいか、札幌以外が増えると思っている」と、道外での事業展開を積極的に進めていることを説明した。

今後の事業の方向性については、「印刷業は中小企業の典型的なスタイルで、基本的に世襲制だが難しい。変化のスピードが速く、取り組む課題が多いため、資本力がある。リストラするには限界があり、東京オリンピック以降はいろいろな業界がしばむなかで、どうやって進化・発展し、給料や売上げを上げるかを考えなくてはならない。増収増益にどうチャレンジするかが課題だが、当社は厳しい環境を味方に付け、時代に逆らわずやっていく。経営は人・物・金というが、印刷業界は物・金で考えている。常に設備等を入れたがるが、人が居なくては企業は成り立たないし、企業を育てるのは人である。そこに気づくと成長する」と人材育成の重要性を強調した。

取組みの一例として、「札幌の町の中心部に会社と工場を構えているのは、地下鉄で通えるところに良い人材が集まるからである。2年前にフィリピンに子会社を作ったのはグローバルな人材を育てるため、英語が話せるし、出稼ぎを嫌がらない。ベトナムやタイに工場を作ると言えば、行ってくれる」と説明した。

今後の成長戦略について、「投資をしなければな

らないが、先ず人に投資をして体制を作ってから設備に投資したい。印刷業で成功する秘訣は、『男兄弟』で経営すること。印刷業は変化が激しいので、経営者一人で戦うのは大変である。『ブラザー』が助け合い、励まし合えばやっていける。少子化で市場が小さくなり、労働者が不足し、紙以外にも多様化した印刷物に対応するには限界がある。皆でM&Aや協業をして、会社の『のれん』を守ることよりも経営を強力にしないと、この業界は沈没してしまう」と連携の必要性を訴えた。



高岡幸生 氏
株式会社リージョンズ
代表取締役

高岡幸生氏は人材サービスを展開しており、「経営者と息が合う人材が何人いるかが大事である。従業員24人のうち、大手工場企業出身者19人は優秀で仕事の覚えが早い。60%が女子で結婚や出産があるが、良い人材が残ってくれる制度を作り

続けている。今後は海外の人材比率を2割に引き上げ、いろいろな人が力を発揮できるようにしたい」と会社概要を説明した。

また、フランチャイズ契約を16エリアで結んでいるが、東京から地方へのUターン人材ビジネスはニッチで、利益率は非常に高いと説明したうえで、「セレクトショップのように良い会社を揃えることが大事で、転職希望者に納得感のあるコンサルが必要である。伸びている会社は採用に命を懸け、最初の面接から社長が出てくる。札幌は人を採りに行く状況だが、仙台や広島よりは採りやすく、本気で臨めば必ず成果が出てくるのが札幌であり、経営者自ら取り組んでほしい。そして経営課題を人材で解決することが大事であり、全て解決するとは言わないが、採用は大事である」と訴えた。



内池秀敏 氏
株式会社内池建設
代表取締役

内池秀敏氏は、建設業を経営しており、「経営者になって10年目で、初年度の売上は17億円であった。入社時の売上は25億円であったが、売上と利益のほとんどが室蘭で、札幌と苫小牧の支店は完全に赤字で危機感を覚えた。役員の支店長

は危機感がなく、苫小牧支店を閉め、私が札幌に行った。その後は役員が辞めて従業員55人も2年間で34人にまで減り、売上は減ったが人件費が減り、利益は増えた。経営資源の人と金を札幌に集中し、差別化のためのブランド、コンセプトを作って、高級住宅を手掛けるようになり、客単価が上昇した。3年前に不動産会社を立ち上げ、売上は戻り、利益が上がるようになり、純資産が倍になった。役員レベルの拠点長の人材を育てることが難しく、社長の器以上の人材が来ないと認識したこの9年間であった」と振り返り、成長戦略を描く上での課題として人材の育成の大事さを強調した。

パネリスト3人は、前記のとおり、それぞれ自社の取り組み事例を紹介した上で、いずれも成長戦略では人材の採用・育成が重要になるとの認識で一致した。

下期事業スケジュールを決定

平成28年度第5回理事会開催

平成28年度第5回理事会が、10月7日午後1時30分から札幌市中央区のかでる2・7で全道から理事10人と監事2人が出席して開催され、下期事業スケジュール等を決定した。

理 事会は、板倉理事長のあいさつの後、定数報告が行われ、理事長を議長に議事に入った。

最初に報告事項として、(1)事業実施状況について、北印工組の事業、全印工連の事業、関連団体の事業に大別して、7月に開催された第4回理事会の以降の活動状況が報告された。

(2)財務状況について、9月末の中間決算（第2四半期）の貸借対照表、損益計算書、予決算対比表、賦課金納入状況が説明された後、植平・島津監事による中間監査が行われ、内容、処理方法は適切である旨の監査報告をいただいたことが報告された。

次に、議事に移り、(1)平成28年度下期事業スケジュールについて、組織の拡大、広報活動の強化、未来を創る業界運動の展開、「印刷の月」行事の取り組み、共済事業への加入促進、福利厚生事業の実施、組織・財政状況の検討、第31回北海道情報・印刷文化典旭川大会の開催準備、組合創立60周年記念誌編纂の9本を柱とした、各事業の実施スケジュールが説明され、決定した。

下期の主な事業スケジュールは、組織の拡大では、組合員の加入促進を積極的に展開、組合員台帳調査票の回収、未来を創る業界運動の展開では、MUD教

育検定ならびにDTP技能検定の受験促進を行うとともにMUDコンペへの積極的参加を呼びかけていく。

(2)平成28年度第6回理事会、下期北海道地区印刷協議会については、北海道印刷関連業協議会平成29年新年交礼会に併せ、1月10日午後1時から第6回理事会、午後1時30分から下期北海道地区印刷協議会を開催することとした。

(3)平成28年度第2回経営者研修会は、1月10日午後2時45分から開催することを決定した。講師、テーマについては、全印工連の下期地区印刷協議会との調整が必要なことから、理事長に一任した。

(4)委員会活動報告は、矢吹経営革新・マーケティング事業委員長から共創ネットワークの無料継続、事業承継の取り組み、勝ち残り合宿ゼミなどについて、井田教育・研修事業委員長から印刷営業士等の制度教育内容の変更、遠隔教育システムの構築などについて、岡部青年部事業委員長から第22回北海道青年印刷人フォーラムの開催結果について、それぞれ報告が行われた。

この後、支部の活動状況について報告が行われ、理事会を終了した。

第22回北海道青年印刷人フォーラム 平成28年度全国青年印刷人協議会 北海道ブロック協議会開催

第22回北海道青年印刷人フォーラムならびに平成28年度全国青年印刷人協議会北海道ブロック協議会が、9月24日午後1時から札幌市中央区の道特会館で10余人が出席して開催された。

全 青協の今期の事業推進テーマは「未知の創造」である。

「製造業から情報価値創造産業への転換」が企業存続への道と捉え、そのために印刷産業以外の産業・業種との組み合わせから新しい「知」を創造するイノベーションについて学んでいく。

最初に、恵勇人議長のあいさつ、事業趣旨説明の後、チームビルディング体験が行われた。

1～50の数字がランダムに書かれた紙を配布し、1から50まで順番に繋いでいき、タイムを測るという手法で体験していただいた。先ず個人で行い、次に数名のチームに分かれて目標タイムを設定して、それをクリアするための戦略を練って、タイムを測定していく。3回の計測で着実にタイムが短縮していく結果となり、組織運営を円滑にするチームビルディングの目的の理解が深まったのではないかと思う。

セミナーでは、飯尾賢副議長が講師を務め、知識や意識の範囲を広げるための「知の探索」と、既に持っている知識や意識を深める「知の深化」をバランス良く行うことが、イノベーションを興すための要素であるが、1社では難しい部分もあるので、アライアンスを取ることが重要であるという内容を話していただいた。

ワークショップでは、自社やクライアントで扱っている商材や、自分の趣味趣向などを洗い出してもらい、チーム内でカードを見せ合い「○○商品×趣味趣向」



や「困り事×▲▲ブーム」などいろいろな組み合わせを現実的に想像・議論して、商品やサービスを考えていった。先頃開幕したプロバスケットボールリーグ「Bリーグ」×「地ビール」で『地ビリーグ』や、若者の酒離れやススキノ離れといった課題解決のための「ガンダムボトル」の開発といったおもしろいアイデアが出てきた。

今回のワークショップは、すぐにでも自社で取り組めるものだと好評であった。

また、経営者層だけではなく、従業員にも聞かせたという意見もあり、次回開催の際は多くの若い方が参加できるような設営が出来ればと考えている。

(青年部事業委員長 岡部信吾)



「特別ライセンスプログラム“CC”」 平成28年度募集のご案内

全日本印刷工業組合連合会

全印工連では、本年度も「Adobe Creative Cloud(略称：CC)」を組合員に特別価格で提供する「特別ライセンスプログラム“CC”」の新規募集(補正含む)を行います。

CC+Creative Suite®(略称：CS)の下位バージョン使用権付(CS6 Design & Web PremiumまたはCS6 Design Standard以下の下位バージョン使用許諾権付)のAプランと、CCのみの利用となるBプランを用意しました。

①特別ライセンスプログラム参加メリット

- ①全印工連のスケールメリットを最大限に活用して、全印工連所属の組合員という限定条件で、特別な価格とサポート体制を実現しています。
- ②契約期間中は常に最新バージョンのCCが利用いただけます。
- ③Aプランでライセンスプログラムに参加されますとCS6以下の下位バージョン使用の許諾が得られることとなり、同一PCに下位バージョンをインストールして使用することができるようになります。これにより、ソフトウェア使用許諾権侵害を防止し、企業のコンプライアンスと社会的信用度が高まります。(CS製品のサポート期間は終了いたしております)

※特別ライセンスプログラム契約のCCは、基本的にデスクトップアプリケーションとしての利用となりますので、Typekit等のクラウドサービスは利用できません。(利用の場合はCC Complete、Standardサービス付きを契約頂き、Adobe IDを登録する必要があります)

おすすめ



POINT

- ☞ 契約は3年間(平成31年11月30日迄)になり、今まで以上にメリットのあるプラン、価格を実現いたしました!(契約期間は3年間、支払は1年単位)
- ☞ CC最新バージョンの発表にともない、上記契約金額が改訂される場合がございますので、この機会にぜひご検討ください!
- ☞ お支払は1年間ごとになり、より負担少なく導入することが可能になりました!

②特別ライセンスプログラム参加条件

- ①参加資格：全印工連加盟47都道府県印刷工業組合に所属する **組合員企業**
- ②契約期間：平成28年12月1日より**3年間**(平成31年11月30日迄) ※途中での契約解除・脱退・返金はできません
- ③参加条件：参加するためには以下の諸条件についての同意が必要となります
 - ① 契約期間中は全印工連がサブスクリプション(期限付き使用権)の管理を行います。
 - ② 会社が保有するDTP用PC全台数分のCCを購入していただきます。(Mac版、Windows版が混在していてもかまいません)
 - ③ 毎年11月頃に会社が保有するDTP用PC全台数と、インストールされた製品の本数を確認いただき、購入本数より超過があった場合は補正をしていただきます。
 - ④ 契約期間中に購入本数に対して利用本数が減った場合でも、その払い戻しはいたしません。
 - ⑤ 契約期間満了時まで契約内容の変更、中止はできません。
 - ⑥ 契約内容につきまして、別途、契約を結んでいただきます。

③プランの概要

Aプラン	CC+CS6 Design & Web Premium または CS6 Design Standard 以下の下位バージョン使用許諾権付プラン		
	A-1. CC Complete + CS6 Design & Web Premium以下の下位バージョン使用許諾権付		
	A-2. CC Complete + CS6 Design Standard以下の下位バージョン使用許諾権付		
	A-3. CC Premium + CS6 Design & Web Premium以下の下位バージョン使用許諾権付		
	A-4. CC Standardサービス (Typekitなど) 付き + CS6 Design Standard以下の下位バージョン使用許諾権付		
A-5. CC Standard + CS6 Design Standard以下の下位バージョン使用許諾権付			
Bプラン	CCのみのご利用で従来のCS 6.0以下の下位バージョン使用権が付かないプラン		
	B-1. CC Complete	B-3. CC Premium	
	B-4. CC Standardサービス (Typekitなど) 付き	B-5. CC Standard	

④提供価格

下記の提供価格は月額料金（税別）を表示していますが、実際の全印工連との契約は、①平成28年12月1日から平成31年11月30日までとなります。②利用料金は1年ごとに支払いただきます。また、Aプランの場合の「下位バージョン使用許諾権料」は初回契約時のみ契約本数分が発生します。（更新の際は必要ありません）

プラン	種類	月額利用料（税別）			オプション	
		1～5本	6～10本	11本以上		
A-1プラン/B-1プラン		5,750円	5,700円	5,650円	下位Ver.使用許諾権料 115,000円	
A-2プラン/	－	5,750円	5,700円	5,650円	100,000円	
A-3プラン/B-3プラン		4,550円	4,450円	4,350円	+	115,000円
A-4プラン/B-4プラン		4,500円	4,400円	4,300円		100,000円
A-5プラン/B-5プラン		3,650円	3,550円	3,450円		100,000円

契約料金計算方法

■Aプランの場合（下位Ver.使用許諾権つき）

（月額利用料×利用月数）×契約本数+オプション（下位Ver.使用許諾権料）×契約本数

■Bプランの場合（下位Ver.使用許諾権なし）

（月額利用料×利用月数）×契約本数

★購入と詳細内容のお問い合わせに関しては、全印工連HP「特別ライセンスプログラム」ページを確認ください。

⇒<http://www.aj-pia.or.jp/>

※支払いは、全印工連からの請求書が到着してからお願いします。

※全印工連が指定する期日までに代金を支払いいただきます。指定期日を過ぎた場合は、無効となりますので注意してください。

※全印工連からの提供は、シリアル認証、ID認証のどちらかを選択いただけます。

※シリアル認証は、別途インストールメディア（DVD・有料）、ID認証は別途ライセンス本数分のAdobe IDが必要となります。

※契約等に関する問い合わせは、全印工連（TEL：03-3552-4571／担当：ぬくい 抜井、高橋）まで。

MUD教育検定3級受検のご案内

11月19日、札幌で開催

NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会は、北海道で2回目の「MUD教育検定3級」を開催する。

ひとり人が主体的に判断し、行動する成熟した社会を創造するためには、情報が公平に入手できる環境を整える必要がある。しかしながら現実的には、必要な情報が公平に伝わっているとは言えない状況にある。隅々まで情報が行き渡り、その内容を多くの人読んで理解できるようにするためにはメディア・ユニバーサルデザイン（以下MUD）の視点は欠

かせない。

MUD教育検定は、ユニバーサルデザイン（以下UD）やMUDの基礎を正しく理解し、多くの人「読める」「わかる」情報を発信することが、情報を発信する側の社会的役割であることを意識し、さらなる利便性の向上に取り組んでいくことを目的としている。

MUD教育検定3級の概要は次のとおり。

日 時	平成28年11月19日(土)	講習／10:00～15:50	試験／16:00～17:00
会 場	TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 (札幌市中央区北4条西6丁目 毎日会館 電話011-600-2615)		
科 目	色覚、文字組版の2科目		
受 検 料	一般16,200円／学生5,400円		
受 検 資 格	制限なし		
詳細・申し込み	NPO法人メディア・ユニバーサルデザイン協会 http://www.media-ud.org		

MUD教育検定3級の内容

色覚編	1.UD概論
	①UDとは何か ②UDの7原則 ③バリアフリーとUD
	2.MUD総論
	①MUDとはなにか ②MUDの対象（者）
文字組版	3.MUD各論
	①色の見え方 ②MUD製品の作り方 ③MUDチェックリスト ④MUD検定を受けるにあたって
	1.文字の設計と書体特性
	①文字の設計 ②書体特性
	2.文字組版
	①文字組版 ②文字サイズ ③文字と行送り ④約物 ⑤禁則処理 ⑥和欧混植
	3.UD文字組版をサポートするフォント
	①UDフォント ②コンデンスフォント

北海道印刷工業組合が北海道へ「避難所サポートセット」を寄贈

北海道印刷工業組合は、10月17日、北海道庁総務部危機対策局へ、メディア・ユニバーサル・デザイン協会が大阪シーリング株式会社に委託製作した、災害時の避難所内の情報表示をわかりやすくするためのUD配慮製品「避難所サポートセット」を4セット寄贈した。

北 海道印刷工業組合から板倉清理事長、岸昌洋副理事長、伊藤克義専務理事が北海道総務部危機対策局を訪問し、北海道からは志田篤俊危機対策局長、土屋節子危機対策課防災教育担当課長が立ち合い、贈呈が行われた。

志田危機対策局長から、「明るい色づかいで、色覚障がい者・高齢者・外国人にも配慮された製品で非常にありがたい。市町村に積極的に知らせていきたい」と感謝の言葉が述べられた。



左から岸副理事長、板倉理事長、志田危機対策局長、土屋防災教育担当課長



北海道印刷関連業協議会平成29年新年交礼会

北海道印刷関連業協議会の平成29年新年交礼会が下記により開催されます。

日時	平成29年1月10日(火) 午後5時	会費	8,000円
会場	札幌グランドホテル (札幌市中央区北1条西4丁目 電話011-261-3311)		

業界のうごき

▶ 藤井印刷(株)社長に藤井智樹氏

藤井印刷株式会社(岩見沢市7条西15丁目3番地)は、このたび、藤井聡社長が代表取締役会長になり、新しく代表取締役社長に藤井智樹氏が就任した。

▶ DICグラフィックス(株)北海道支店長に宮崎正毅氏

DICグラフィックス株式会社北海道支店(札幌市手稲区曙2条5丁目2番58号)は、このたび、佐藤房雄支店長に代わり、新しく支店長に宮崎正毅氏が就任した。

▶ (株)金陽社札幌出張所が移転

株式会社金陽社札幌出張所(菊地一人所長)は、このたび、新社屋が竣工し、移転した。

〔新住所〕〒001-0925 札幌市北区新川5条6丁目4番21号 電話011-788-6378 FAX011-763-0655

▶ (株)小森コーポレーション北海道営業所改修工事が完了

株式会社小森コーポレーション北海道営業所(金田朋生所長)は、改修工事のため仮移転していたが、このたび、改修工事が完了し、同所での営業を開始した。

〔住所〕〒060-0008 札幌市中央区北8条西26丁目3番7号 電話011-641-1505 FAX011-641-1642